

## 低線量肺がんCT検診受診間隔の目安

個人のリスクにあった間隔で検査を受けましょう

- ① **50歳以上の\*重喫煙者** ⇒年1回の検診を強くお勧めします！

重喫煙者に対しては、胸部X線より低線量CTのほうが利益が大きいと考えられます。

(国立がんセンター「有効性評価に基づく肺がん検診ガイドライン2025年度版」より)

\*重喫煙者とは：喫煙指数（1日の喫煙本数×喫煙年数）が600以上の方

- ② **50歳以上で非喫煙者および軽度喫煙者** ⇒最初2年は連続して受診して頂き、問題となる異常がなければそれ以降3～5年に1回程度をお勧めします。

- ③ **40歳未満** ⇒お勧めしません（肺がん罹患率が極めて低く、CT検診を受ける利益を不利益が上回る可能性があります）。

[日本CT検診学会、胸部CT検診研究会の対象者適応基準を参考にしています]

重喫煙者でなくてもそれに近いまたは長期喫煙歴のある方は年1回の検診をお勧めします。

なお、肺がんCT検診は任意検診であり、肺がんの家族歴がある方、受動喫煙による心配がある方、肺がんの心配がある方におかれましてはこの限りではありません。

### ★肺がんCT検診を受けられない方

- ・妊娠または妊娠の可能性がある
- ・除細動器が植え込まれている
- ・過去に肺がんになった方、肺疾患治療中または経過観察中である
- ・息止めができない（約7～10秒程度）

[この検診で考えられる利益]

肺がんCT検診によって早期に病変が発見された場合、より早期に適切な治療を受けることができ、その肺がんによって命を奪われることを防ぐ事ができる可能性があります。

また肺がん以外の呼吸器疾患や肺以外の臓器の疾患が発見されることもあります。

[この検診で考えられる不利益]

肺がんCT検診は低線量とはいえ若干の放射線被ばくを伴います（通常行われる胸部CT検査の約1/4～1/5程度の被ばく線量です）。

肺がんCT検診によってすべての肺がんが早期に見つかるわけではありません。肺がんが存在する場所や数ヶ月で急速に成長する悪性度の高いがんでは、検出が困難な場合があります。

肺がんは

死亡数1位

罹患数2位

のがんです

## 低線量肺がんCT検診のご案内

令和8年4月1日から開始します

低線量肺がんCT検診は胸部X線では発見困難な小さながん、背側・血管・心臓の影になって見えにくい部分のがんを発見できることが国内外の研究で報告されています。

★国立がんセンター「有効性評価に基づく肺がん検診ガイドライン2025年度版」では50-74歳の\*重喫煙者においては年1回の低線量CT検診を推奨します（推奨グレードA）と発表されました。\*重喫煙者とは：1日の喫煙本数×喫煙年数が600以上の方

### 肺がんCT検診をお受けいただきたい方

- ・喫煙指数（1日に喫煙本数×喫煙年数）が600以上または長期喫煙歴のある方
  - ・過去に喫煙歴がある、同居者に喫煙者がいる方
  - ・有害物質である石綿（アスベスト）等を取り扱っている、または取り扱っていた方
  - ・血縁者に肺がん患者さんがいる方
  - ・50歳以上の肺がんが心配な方（男女問わず）
- \*肺がん検診は任意でありこの限りではありません

**【申し込み】** 電話にて 088-678-7128 (8:30-16:00)

\*当日申し込み可能⇒受付にて同意書・問診票を記入していただきます。

**【撮影の流れ】** 食事制限はありません

1. CT装置のベッドに横になっていただきます。
2. 数秒間息を止めていただきます。
3. 痛みはなく入室より約5分程度で終了です。

**【料 金】** 11,000円（税込み）。

ドック・協会けんぽの方は追加料金8,800円（税込み）にて受診できます。

**【結 果】** 検査当日の結果説明は致しません。

後日、肺がんCT検診認定医師が判定します。

- ・ドック等で受診の方⇒その結果と一緒に郵送します。
- ・肺がんCT検診単独の方⇒3週間以内に郵送します。